

次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会

第2回会合 議事要旨

1 日 時 平成19年1月29日(月)午後2時～午後4時15分

2 場 所 総務省10階 1001会議室

3 出席者

(1) 構成員(五十音順、敬称略)

井堀 幹夫(代理:日下 保裕)、牛窪 孝、小川 博世、黒川 敏、小池 隆司(代理:若森 和彦)、笹生 剛良、坪川 信、中川 正雄(座長代理)、橋本 明、羽鳥 光俊(座長)、濱井 龍明、藤原 隆平、松村 友邦、松本 充司、村尾 憲治(代理:馬淵 孝之)、八嶋 弘幸、山戸 康弘、弓削 哲也

(2) 総務省

森総合通信基盤局長、江村高度通信網振興課長、片桐高度通信網推進官、臼田課長補佐、杉浦電波環境課長

(3) オブザーバー(敬称略)

野田 勉(日本ケーブルラボ)

4 議事要旨

(1) 第1回会合議事録(案)について

資料2-1について、事務局より前会議事録(案)の確認がなされ、了承された。

(2) 国内外におけるブロードバンド技術動向

資料2-7について、事務局より説明がなされ、特段質疑応答はなかった。

(3) ブロードバンド技術の動向

資料2-2について坪川構成員、資料2-3について濱井構成員、資料2-4について弓削構成員よりそれぞれ発表が行われ、資料2-2について以下のやり取りがなされた。

【やり取りの内容】

- ・曲げフリー光コードのコストや特性についての質問に対し、コストについては、量産効果により軽減できるが、現行のものと同程度になるかは不明であるとの説明がなされた。また、特性に関しては、光ファイバ内の閉じこめ効果を高く漏れを防いでいる旨の説明がなされた。
- ・WIPASの使い分けについての質問に対し、利用者密度や有線の敷設可能性について考慮して判断されているとの説明がなされた。

(4) CATV技術の動向

資料2-5について野田オブザーバーより発表が行われ、以下のやり取りがなされた。

【やり取りの内容】

- ・CATVでは、なぜ2心方式が多いのかの質問に対し、両方式の敷設コストがあまり変わらないため、将来的に1心方式に変更したとしても、残り1心を別の用途で使用可能である旨の

説明がなされた。

- ・米国で先行的に行われている DOCSIS 3.0 や c.LINK の標準化に関する質問では、技術的には米国が先行して開発・標準化しているものであるとの説明がなされた。
- ・米国における河川や離島に渡す場合の対処方法の質問に対し、米国での事例は不明だが、日本では 23GHz 帯での例があるが安定な有線が基本で、無線の安定度や自由度を勘案しながら設置しているとの説明がなされた。

(5) ミリ波関連技術の動向

資料2-6について小川構成員より発表が行われ、以下のやり取りがなされた。

- ・60GHz 帯以上でも 34GHz 帯と同様に霧に対する耐性があるのかとの質問に対し、特性的にほぼ同等であるため耐性がある旨の説明がなされた。
- ・米国の免許要バンド(71-76GHz 帯、81-86GHz 帯)と免許不要バンド(92-95GHz 帯)の関連性についての質問に対し、米国では、免許要バンドは主に事業者が使用し、免許不要バンドはそれ以外で使用されているとの説明がなされた。また、免許不要バンドでの干渉についての質問に対し、干渉が起こらないよう技術基準が策定されており、基本的に大きな影響はないとの説明がなされた。
- ・Wireless CATVのコストと普及状況についての質問に対し、ポイントツーマルチポイントのため割安になると思われるが、このような利用例は少ないとの説明がなされた。
- ・アンテナの小型化についての質問に対し、短距離のものは小型化されているとの説明がなされた。
- ・60GHz 帯が空気分子と共振して減衰する際の対処方法についての質問に対し、共振のための窓に合わせることで減衰に対処しているとの説明があった。

[配布資料]

資料2-1 次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会(第1回)議事録(案)

資料2-2 ブロードバンドアクセス技術の取り組み

資料2-3 KDDIのブロードバンド化への取り組み

資料2-4 次世代ブロードバンド技術の取り組みについて

資料2-5 ケーブルテレビの現状(サービスと技術)と今後の動向に関して

資料2-6 ミリ波の最近の研究開発動向

資料2-7 国内外のブロードバンド技術の動向

参考資料2-1 次世代ブロードバンド技術の利用環境整備に関する研究会(第1回)議事要旨